

# The Journal of Global Studies

ICHINOMIYA NISHI SHS 4th September 2017

## 国際理解コースと入試…コース設定授業でつける力

・次の言葉のうちいくつ知っていますか？

パブリシティ、コンセンサス、インセンティブ、ポスト・モダン、アナキズム、セーフティネット

・次のテーマの課題文を読んで90分で1200字書いて下さい、  
と言われたら書ける自信がありますか？

生活保障、排除しない社会へ。ベーシックインカムを日本に導入すべきか

『安心社会』から『信頼社会』へ

「反証可能性がない仮説」とは何か

「主権」の概念と「地域主権論」

法哲学における強制説と半強制説の比較



名古屋大学（豊田講堂）

ここに挙げたのは、コースの目標校の一つである名古屋大学法学部入試で出題された小論文のテーマです。最初のカタカナ語は出題された課題文中の用語です。

こういった課題を仕上げるにはどのような力をつけなくてはならないでしょうか。まず課題文を「読む」のが必要です。しかし上に挙げたような言葉になじみがなく、テーマについての知識が乏しければ、理解に時間がかかります。また、たとえ知識があっても、硬い文の読み方に慣れていなければ、要旨を的確に素早く読み取ることはできません。さらに、論文を書く前には、「考える」ステップがあります。何を考えるのか、どう考えるのかが問題となります。そして「書く」際にも、手元に材料がなければ、自分の感想や印象を述べるのみとなり、とても1200字の小論文にはなりません。このような論文を書くためには、日頃から時事問題に触れ、政治・経済・国際関係などというトピックについて、現在の状態はなぜ生み出されたのか、何が問題でどの方向に向かっているのか、という問題意識をもちながら、自分の考えをまとめていく訓練が必要となります。

名古屋大学に限らず、このような問題を出題する大学は多くあり、これからも増えることが予想されます。「真のグローバル人材」を育成するという国際教養大（公立・開校13年・センター試験で要求される点数は東大レベルになった。1年間の留学を必須とし、授業は英語、就職率は100%を誇る）では、社会問題に関する出題文を読み、300語の英語小論文を90分で書くという入試が行われています。その際、「聞かれたことに的確に意見を述べ」「自



国際教養大学（図書館）

分の知識・経験から適切な例を含め」「英語の論述のルールに従って」書け、という要求もあります（全て英語）。  
上記のような問題が出題される背景の一部には、日本の「グローバル」化があります。この先の世界で重要となる力は、「幅広い教養」「課題解決能力」「コミュニケーション能力」だと言われています。そのような力の基本が高校卒業レベルで身につけており、大学での勉強や研究に十分耐えられるのか、また名大の法学部では国際法のゼミも多くあるため、国際的な視点を持てる生徒なのか、というようなことが試されているのです。

国際理解コースでは、上記のような問題に対応できるようにコース独自の授業を行います。今回は設定科目の一つ「**国際社会の理解**」について、チラッと見をしてみましょう。

## Let's have a glance! 国際理解コース授業チラッと見

「グローバルヒストリー」という世界史のとらえ方があります。これまでのように一国史を掘り下げるのではなく、ユーラシア大陸やインド洋世界というような、陸域・海域全体の構造や動きを対象とし、諸地域間の相互の関わりに力点を置くのが、その特徴の一つです。

紀元1世紀というと、どのような世界を想像しますか？それぞれの地域がそれぞれ単独に歴史を重ねているというイメージをもっていないか？

ちなみに日本ではまだ邪馬台国も成立していません。しかし、当時港市として栄えていた東南アジアのオケオでは、インドの神像・仏像、ローマ金貨が出土しています。すなわち、紀元1世紀でさえ、遠く離れた各地域は想像以上に結びつき、様々な技術や文化を伝えあい、関わりあっていたのです。

「グローバル」な世界は、今に始まったことではありません。大学入試でも、このような視点にたった面白い問題が数多く出題されるようになってきました。設定科目「国際社会の理解」では、この考え方を重視してより深く学ぶことで、大学入試の論述問題にも対応できる力をつけます。そしてその力は、大学に入ってから、また、社会に出ても役立つものとなるはずです。

# The Journal Of Global Studies

ICHINOMIYA NISHI SHS 4th September 2017